

## PREFACE

# 表面科学会の発展を期待する

中村 勝吾

表面科学がこれまで物理学、化学、金属学、電子工学、応用物理学等を多岐にわたる学問領域にそれぞれ関係があり、しかも工学的には重要な研究課題であることは多くの識者によって指摘されて来ている。最近10年余の間に超高真空技術や信号処理技術に支えられて種々の表面分析機器が開発され、次々と新しい研究手法が確立されるにおよんで、工学的な応用だけでなく、基礎科学の1つとして、表面科学が共通の基盤を持つに至った。表面科学会がこのような表面の基礎研究を担当している人々を漏らさず包含することはまず必要な事である。

しかし最近開発された電子分光法をはじめとして種々の表面分析機器は殆んど例外なく高価なもので、個々の大学の研究室に設置することが容易ではなく、しかも一つの研究プロジェクトに必要な Machine time がかなり長いことから、現状では恵まれた一部の研究者にしかそれを利用する機会が与えられていない。

一方、工学的な分野では、表面を制御したり、表面の特性を利用する上で、極めて多方面の研究者や技術者が表面科学に関心を持っている。しかし各々の専門領域には長い伝統を持った学会があり、各研究者はそれぞれ学会活動の場を持っている筈である。従って表面科学会が今後の発展を維持するためには、関係学会と友好関係を保ちつつ、専門領域を異にしなから、しかも表面界面に関心をもつ多数の研究者を集めて行くことが必要である。その為には、学際領域の研究情報交換の場を設ける事が表面科学会の役割の一つである。そのために学会誌の果たす役割は他の学会よりもはるかに重要である。

Overview や Current topics 等も、いずれか一つの専門領域に偏ることなく、年間を通じてバランスのとれた内容であることは勿論である。本会誌が国内の情報ばかりでなく海外の情況、特に国外の研究集会や研究動向が継続的、恒久的に掲載されることが必要であろう。このため国外在住の日本人研究者あるいは外国人研究者を適当に選んで学会を通じ、または会員個人を通じ会誌編集者に連結するようなネットワークが形成されることも一策ではなかろうか。

これまで実際に学会の編集に当たって来られた方々の努力によって、表面科学の学際領域の研究情報誌としてユニークな会誌が発行されて来たことは一会員として感謝している。“表面科学”が創刊されてから3年目を迎えたが、今後もマンネリに陥ることなく、常に新しいアイデアが盛り込まれることが必要である。常に良い会誌が発行されるために、編集委員にまかせるだけでなく、個々の会員の協力と会誌の内容に対する積極的な関心が必要であろう。

充実した会誌を基礎として表面科学会がわが国に定着し、安定な成長を遂げるよう期待する。